

# SUNRISE

<SUNRISE＝太陽が昇る「日の出」と、三中(SUN)の雰囲気がいよいよ上がって(RISE)いくようにとの思いを込めて…>

堺市立三国丘中学校 生徒指導通信 生徒指導部発行 No. 2026. 1. 19

## 良い人間関係をつくるために。。。

過去に載せたことがあります。とても興味深い話なので今年もまた紹介します。

昔あるところに、口を開けば人の悪口しか飛び出さない、他人を思いやる優しさのない男がいました。生まれたときから人に感謝したことがなく、自分の都合が悪ければ親であっても罵倒（ばとう）し、これまで何人の人間を傷つけたかわからないほどでした。

ある晩、その男は夢を見ました。夢の中に真っ白な衣のようなものを着た人が現れ、その男に向かって言いました。「タベ、お前はまた人を傷つけたな。これでお前が傷つけた人間の数がちょうど 9999 人に達した。あと一人でも傷つけて 1 万人に達したら、お前は死ぬ。しかし、最後にチャンスを与えよう。朝、家の前に出てみなさい。そこに 9999 本の釘が刺さった杭が一本、打ち込んである。その釘の数は、お前が傷つけた人の数である。お前が人を傷つける度に、増えていった数である。しかし、お前が人に感謝されたり、喜ばれたりすれば、釘は自然と減っていくだろう。」

あくる朝、目覚めた男は「変な夢を見た」と思いましたが、気になったので家の外に出てみました。すると何ということでしょう。夢のとおり、家の前に釘が所狭しと打ち込まれた杭が立っていました。

改めて、その釘の多さに驚いた男でしたが、とりあえず死にたくはないので、その日から人の悪口を言うのはパタリと止めました。

さらに良い行いを毎日重ね、釘を減らす努力をしました。最初こそ不審がっていた人々でしたが、次第に打ち解け、男に感謝するようになってきました。初めて人から感謝された男は、なんともくすぐったい不思議な気持ちになったのです。

「これが感謝されるということなのか。どういうわけか胸の奥がぽかぽかしてくるなあ。」それから男は一切悪口を言わずに、毎日毎日、人のために尽くしました。そうしている間に、いつしかあれだけあった杭の釘は、一本もなくなっていました。

するとその夜にまた夢を見ました。あの時と同じ白い服を着た男が現れ、「よくやりました。釘は全てなくなりました。」と告げました。突然の夢に驚いた男が飛び起きて家の前を見ると、言われたとおり確かに釘は全て消えていました。途中で釘のことなどどうでもよくなっていた男は、その時、初めてそのことに気づいたのでした。感動の涙を流す男でしたが、さらにどこからともなく声が聞こえました。

「その杭をよく見てごらんなさい。確かに釘はきれいさっぱりなくなりましたが、そこには無数の穴が開いています。釘を抜くのは簡単ですが、一旦開いた穴をふさぐのはとても難しい。」

男はこの時、初めて人を傷つけることの深さを思い知りました。

今一度、人を傷つけるとはどういうことか、人にいやな思いをさせるとはどういうことか、よく考えてください。こけたり、ぶつかったりしてできた体の傷は、薬を塗ったり、包帯を巻いたりして治せます。しかし、悲しいことやつらいこと、いじめによってできた心の傷は、薬や包帯では治すことができません。

日々の生活に自覚と責任を持って行動してください。残り 2 ヶ月、まずは「クラスメイトにやさしく」から始めてください。きっとクラスの大切さを感じることができると思います。